

参考文献・資料

【文献】

- 秋元樹、1992、『アメリカ労働運動の新潮流』日本経済評論社。
- 青木章之介、1988、「地域合同労組の新展開」東京都立大学大学院社会学研究会『社会学論考』第9号。
- Beechey, V., 1987, *Unequal Work* University of California Press. (高島道枝、安川悦子訳、1993、『現代フェミニズムと労働』石川吉子編『合同労組』日本労働協会)
- Blum, L., 1991, *Between Feminism and Labor* University of California Press. (森ます美、居城舜子訳、1996、『フェミニズムと労働の間』御茶の水書房)
- Brinton, M., 1993, *Women and the Economic Miracle* University of California Press.
- Castel, M., 1983, *the City and the Grassroots* Edward Arnold. (石川淳志監訳、1997、『都市とグラスルーツ』法政大学出版局)
- Cockburn, C., 1987, *Women, Trade Unions and Political Parties* Fabian Research Series No.349.
- 藤田とし子、1991, *In the Way of Women: Men's Resistance to Sex Equality in Organizations*, Macmillan.
- コミュニティ・ユニオン研究会編、1988、『コミュニティ・ユニオン宣言』第一書林。
- コミュニティ・ユニオン全国ネットワーク編、1993、『ユニオン・にんげん・ネットワーク コミュニティ・ユニオン宣言II』第一書林。
- Connell, R., 1987, *Gender and Power* Stanford University Press. (森重雄ら訳、1993、『ジェンダーと権力』三交社)
- Cunnison, S., Stageman, J., 1994, *Feminizing the Unions*, Avebury.
- 江原又七郎、1960、『日本の合同労組』法政大学出版会。
- 遠藤公嗣、1995、「労働運動と民主主義」『戦後民主主義』第四巻 岩波書店。
- 1999、『日本の人事査定』ミネルヴァ書房。
- 藤田若雄、1955、『第二組合』日本評論社。
- 福井祐介、2001、「コミュニティ・ユニオンが個別紛争解決に果たす役割について」九州大学大学院人間環境学府紀要『共生社会学』第2号。
- Giddens, A., 1992, *Transformation of Intimacy* Polity Press. (松尾精文、松川昭子訳、1995、『親密性の変容』而立書房)
- Habermas, J., 1990, *Strukturwandel der Öffentlichkeit* Suhrkamp. (細谷貞男・山田正行訳、1992、『公共性の構造転換 第二版』未来社)
- 1981, *Theorie des Kommunikativen Handelns* Suhrkamp. (丸山他訳、1987、『コミュニケーション的行動の理論 下』未来社)
- 藤村博之、1993、「労働組合女性役員の国際比較」『社会政策学会年報第37集 現代の女性労働と社会政策』御茶の水書房。
- 兵藤釗、1997、『労働の戦後史上・下』東京大学出版会。
- 林信雄、1962、『合同労組と労働法』(増補版) ミネルヴァ書房。
- 間宏、1967、「労働者の企業意識と組合意識」『現代労働問題講座第4巻 労使関係』有斐閣。
- 1996、『経済大国を作り上げた思想』文真堂。
- 平澤克彦、1999、「女性労働と労働組合」藤井治枝・渡辺峻編『叢書現代経営学13 現代企業経営の女性労働』ミネルヴァ書房。
- 久本憲夫、1998、『企業内労使関係と人材形成』有斐閣。
- 伊田広行、1997、「シングル単位概念の意義—フェミニズムの説得性—」『大阪経大論集』第48巻第3号。
- 1998、『21世紀労働論』青木書店。
- 今井けい、1992、『イギリス女性運動史』日本経済評論社。
- 今井賢一・金子郁容、1988、『ネットワーク組織論』岩波書店。
- 稲上毅、1981、『労使関係の社会学』東京大学出版会。
- 稲上毅編、1995、『成熟社会の中の企業別組合』日本労働研究機構。
- 稲上毅・川喜多喬編、1988、『ユニオン・アイデンティティ』日本労働協会。
- Inglehart, R., 1977, *The Silent Revolution*, Princeton University Press. (三宅・金丸・宮沢訳、1978、『静かなる革命』東洋経済新報社)
- 1990, *Culture Shift In Advanced Industrial Society*, Princeton University Press. (村山・富沢・武重訳、1993、『カルチャーシフトと政治変動』東洋経済新報社)
- 井上雅雄、1989、『日本の労働者自主管理』東京大学出版会。

- 小谷幸、1997、『社会変容と労働』木鐸社。
- 2000a、「労働・余暇・アイデンティティ」『大原社会問題研究所雑誌』499号。
- 2000b、「労働運動」『大原社会問題研究所雑誌』504号。
- 石田光男、1990、『賃金の社会科学』中央経済社。
- 1998、「人事処遇の個別化と労働組合機能」『日本労働研究雑誌』No. 460 日本労働研究機構。
- 石田光男・藤村博之・久本憲夫・松村文人、1997、『日本のリーン生産方式』中央経済社。
- 石川吉右衛門編、1963、『合同労組』日本労働協会。
- 伊藤るり、1993、「〈新しい社会運動論〉の諸相と運動の現在」『岩波講座社会科学の方法VIIIシステムと生活世界』岩波書店。
- 上智大学社会正義研究所/国際基督教大学社会科学研究所編、1996、『女性の人権と現代社会』明石書店。
- 梶田孝道、1988、『テクノクラシーと社会運動』東京大学出版会。
- 鎌田とし子編著、1987、『転機に立つ女性労働』学文社。
- 鎌田とし子、1995、『男女共生社会のワーク・シェアリング』サイエンス社。
- 鎌田とし子、1999、「社会構造の変動とジェンダー関係」鎌田・矢澤・木本編(1999)所収。
- 鎌田とし子・鎌田哲宏・佐々木明子・小谷幸・鶴田有希、1998、『ダブルインカム家族のジェンダー関係』東京都女性財団1997年度助成研究報告書。
- 鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子編、1999、『講座社会学14 ジェンダー』東京大学出版会。
- 上井喜彦、1994、『労働組合の職場規制』東京大学出版会。
- 上井喜彦、2001、「日本の労働組合は交渉しているか」上井喜彦・野村正實編『日本企業 理論と現実』ミネルヴァ書房。
- 金井淑子、1989、『ポストモダン・フェミニズム』勁草書房。
- 片桐新自、1994、「社会運動の総合的把握のための分析枠組み」社会運動論研究会編(1994)所収。
- 1995、『社会運動の中範囲理論』東京大学出版会。
- 川喜多喬、1987、「ホワイトカラーの職業・労働問題」栗原彬・庄司興吉編『社会運動と文化形成』東京大学出版会。
- 1997、「サラリーマンたちの心情」連合総合生活開発研究所編『創造的キャリア時代のサラリーマン』日本評論社。
- 川喜多喬・佐藤博樹、1991、『ユニオン・アイデンティティ大作戦』総合労働研究所。
- 河西宏祐、1981、『企業別組合の実態』日本評論社。
- 1982、「労働組合「再生」の基盤」清水編(1982)所収。
- 1989、『企業別組合の理論』日本評論社。
- 1990、『新版・少数派労働組合運動論』日本評論社。
- 1998、「〈新型〉労働組合の動向」『日本労働社会学会年報』第9号。
- 2001、『日本の労働社会学』早稲田大学出版会。
- 木本喜美子、1995a、『家族・ジェンダー・企業社会』ミネルヴァ書房。
- 1995b、「性別職務分離と女性労働者」『日本労働社会学会年報』第6号。
- 見田宗介、1998、「働き過ぎ社会と男性」、「サラリーマン受難時代」
- 宮地光子、1996、『働き過ぎ社会』庄司洋子・木本喜美子・重川治樹『居場所を取り戻そう、男たち』東京女性財団。
- 宮本幸二、1999、「女の仕事と男の仕事」鎌田・矢澤・木本編(1999)所収。
- 2000、「労働とジェンダー」『大原社会問題研究所雑誌』504号。
- 2002、「労働組織とジェンダー」『社会学評論』208号。
- 木下武男、1996、「労働組合運動」、「女性運動」渡辺治編『現代日本社会論』労働旬報社。
- 元島邦夫、1997、「日本的労使関係の現段階と年功賃金」渡辺治・後藤道夫編『講座現代日本3 日本社会の再編成と矛盾』大月書店。
- 1998、『労働運動フェミニズム』と女性の連帯組織」中野麻美、森ます美、木下武男編(1998)所収
- 北川隆吉、1957、「労働組合と社会」『講座社会学6 階級と組合』東京大学出版会。
- 1958a、「社会運動の類型と組織」『講座社会学8 社会体制と社会変動』東京大学出版会。
- 1958b、「社会運動の展開と指導」『講座社会学8 社会体制と社会変動』東京大学出版会。
- 中村圭介、1967、「ホワイトカラーの意識」『現代労働問題講座第4巻 労使関係』有斐閣。
- 小池和男、1977、『職場の労働組合と参加』東洋経済新報社。
- 中村眞人、1991、『仕事の経済学』東洋経済新報社。
- 国際労働研究センター、1998、国際労働研究センター連載35、36「衰退を逆転する—TUCのニューユニオニズム戦略 上・下」
- 『労働法律旬報』1432-1434号

- 小谷幸、1999a、「女性の“新しい”労働運動—『女性ユニオン東京』の事例研究—」日本労働社会学会『労働社会学研究』第21号。
- 1999b、「『女性ユニオン東京』にみる女性の働き方の変化」『労働の科学』1999年12月号。
- 2001a、「『東京管理職ユニオン』の組織と活動」早稲田大学大学院人間科学研究科『ヒューマン・サイエンス・リサーチ』第10号。
- 2001b、「『東京管理職ユニオン』組合員の意識変容」『日本労働社会学会年報』第12号。
- 2002、「『女性ユニオン東京』の組織・活動・組合員意識—ジェンダー・センシティブな組合文化への着目を通じて—」東京女子大学社会学会『経済と社会』第30号。
- 熊沢誠、1981、『日本の労働者像』筑摩書房。
- 1989、『日本的経営の明暗』筑摩書房。
- 1992、「二つのフレキシビリティ」『窓』12号。
- 1997、『能力主義と企業社会』岩波新書。
- 2000、『女性労働と企業社会』岩波新書。
- 栗田健、1994、『日本の労働社会』東京大学出版会。
- Lawrence, E., 1993, *Gender and Trade Unions*, Taylor&Francis.
- Lipnack, J., Stamps, J. 1982, *Networking*, Ron Bernstein Agency Inc. (正村公宏監修 社会開発統計研究所訳、1984、『ネットワークワーキング』プレジデント社)
- Mantios, G., (ed), 1998, *A New Labor Movement for the New Century*, Monthly Review Press. (戸塚秀夫監訳、2001、『新世紀の労働運動』緑風出版)
- 松島静雄、1951、『労働社会学序説』福村書店。
- 1962、『労務管理の日本の変遷と特質』ダイヤモンド社。
- 1978、『女子の社会学的考察—鉱山労働者の営む生活共同体』御茶の水書房。
- Melucci, A., 1989, *Nomads of the Present: Social Movements and Individual needs in Contemporary Society*, Temple University Press. (山之内靖他訳、1997、『自由に生きる遊牧民(ノマド)』、岩波書店)
- 1995、「新しい社会運動と個人の変容」矢沢修次郎・山之内靖聞き手『思想』3月号 岩波書店。
- Merton, R.K, 1949 rev.ed., 1957, *Social Theory and Social Structure* The Free Press. (森東吾・森好夫・金沢実・中島竜太郎訳、1961、『社会運動と社会構造』みすず書房)
- Milkman, R., 1991, 'Women Workers, Feminism and the Labor Movement since the 1960s', in Milkman(Ed.) *Women, Work and Protest*, Routledge and Kegan Paul.
- Mills, C.W., 1951, *White Collar: The American Middle Class*, Oxford University Press. (杉政孝訳、1957、『ホワイトカラー』東京創元社)
- 嶺学、1980、『第一組合』御茶の水書房。
- 見田宗介、1966、『価値意識の理論』弘文堂。
- 宮地光子、1996、『平等への女たちの挑戦 均等法時代と女性の働く権利』明石書店。
- 宮本孝二・森下伸也・君塚大学編、1994、『組織とネットワークの社会学』新曜社。
- 森建資、1992、「労働組合と国民生活」栗田健編『現代日本の労使関係』労働科学研究所出版部。
- 森田雅也、1996、「裁量労働制の実態と新しい人事労務管理」『関西大学社会学部紀要』第28巻1号。
- 元島邦夫、1982、『大企業労働者の主体形成』青木書店。
- 元島邦夫、1988、「『民活社会』の生活・労働フィロソフィー」佐々木一郎・野原光・元島邦夫『働きすぎ社会の人間学』労働旬報社。
- 元島邦夫、1991、「『企業社会』と『生活価値』」日本労働社会学会『日本労働社会学会年報』第2号。
- 日本労働研究機構、1995、『個別紛争処理システムの現状と課題』調査研究報告書No. 65。
- 永野仁、1995、「日本型企業社会とホワイトカラー」『社会政策学会年報第39集 現代日本のホワイトカラー』御茶の水書房。
- 長尾博揚、2002、「1990年代の労使関係研究」東京大学社会科学研究所『社会科学研究』第53巻1号。
- 中村圭介、1996、『日本の職場と生産システム』東京大学出版会。
- 中村圭介・佐藤博樹・神谷拓平、1988、『労働組合は本当に役に立っているのか』総合労働研究所。
- 中村真人、1991、「ある電気機械部品工場の労使紛争」『日本労働社会学会年報』第2号。
- 中野麻美・森ます美・木下武男編、1998、『労働ビックバンと女性の労働・賃金』青木書店。
- 直井春夫・成川美恵子、1998、『労委制度ノート—新しい紛争解決システムの模索—』総合労働研究所。

- 成川美恵子、1998、「東京の合同労組③」『中央労働時報』1998年10月号。
- 二村一夫、1987、「日本労使関係の歴史的特質」『社会政策学会年報第31集 日本の労使関係の特質』御茶の水書房。
- 二村一夫、1994、「戦後社会の基点における労働組合運動」坂野潤治他編『シリーズ日本近現代史4』岩波書店。
- 仁田道夫、1988、『日本の労働者参加』東京大学出版会。
- 野原光、1988a、「現代自動車産業における労働者像」野原光・藤田栄史編『自動車産業と労働者』法律文化社。
- 野原光、1988b、「現代大工業のいない手たち」佐々木一郎・野原光・元島邦夫『働きすぎ社会の人間学』労働旬報社。
- 沼田稻次郎編、1963、『合同労組の研究』労働法学研究所。
- 野村正實、1993、『トヨティズム』ミネルヴァ書房。
- 1998、『雇用不安』岩波新書。
- 尾高邦雄、1953、『産業における人間関係の科学』有斐閣。
- 1981、「労働者意識の構造」『産業社会学講義』岩波書店。(但し選集第四巻、夢窓庵1995より所収)
- Offe, C., 1987, *Anthology of the Works* MIT Press. (寿福真美編訳、1988、『後期資本制社会システム』法政大学出版局)
- 小川浩一、2000、「日本における外国人労働者の組織化—神奈川シティユニオンのケーススタディを通して」『労働法律旬報』No.1481/3、2000年6月上旬号、7月上旬号。
- 大河内一男・氏原正治郎・藤田若雄編、1959、『労働組合の構造と機能』東京大学出版会。
- 大沢真理、1993a、『企業中心社会を超えて—現代社会を〈ジェンダー〉で読む』時事通信社。
- 1993b、「日本における『労働問題』研究と女性—社会政策学会の軌跡を手がかりとして—」『社会政策学会年報第37集 現代の女性労働と社会政策』御茶の水書房。
- 1993c、「会社人間さようなら—企業中心社会の形成と社会政策のジェンダー・バイアス—」原ひろ子・大沢真理編『変容する男性社会—労働・ジェンダーの日独比較』新曜社。
- Reddift, N. & Sinclair, T., 1991, *Working Women: International Perspectives on Labour and Gender Ideology* Routledge.  
(山本光子訳、1994、『ジェンダーと女性労働—その国際ケーススタディ』拓植書房)
- 連合総合生活開発研究所、2001、『労働組合の未来をさぐる』
- 労使関係調査会編、1981、『転換期における労使関係の実態』東京大学出版会。
- 作田啓一、1972、『価値の社会学』岩波書店。
- 佐藤博樹・梅澤隆、1983、「労働組合の『発言』と組合類型」日本労働協会編『80年代の労使関係』日本労働協会。
- 佐藤慶幸編、1988、『女性たちの生活ネットワーク』文眞堂。
- 佐藤慶幸、1991、『生活世界と対話の理論』文眞堂。
- 1995、『女性たちの生活者運動』マルジュ社。
- 1996、『女性と協同組合の社会学』ミネルヴァ書房。
- 佐藤俊樹、2000、『不平等社会日本』中公新書。
- 渋谷教司、1987、「現代アメリカにおける女性労働と女性運動」鎌田編(1987)所収。
- 下山房雄、1997、『現代世界と労働運動』御茶の水書房。
- 壽里茂、1996、『ホワイトカラーの社会史』日本評論社。
- 塩原勉、1976、『組織と運動の理論』新曜社。
- 1994、『転換する日本社会』新曜社。
- 『思想』737号、1985、特集：新しい社会運動 岩波書店。
- 清水慎三編、1982、『戦後労働組合運動史論』日本評論社。
- 鈴木玲、2001、「労使関係」『大原社会問題研究所雑誌』507号。
- 社会運動論研究会編、1994、『社会運動の現代的位相』成文堂。
- 庄司興吉、1989、『人間再生の社会運動』東京大学出版会。
- 高田佳利、1964、「職場組織」青井和夫編『現代社会学講座Ⅲ 組織の社会学』有斐閣。
- 高木郁朗、1999、「コミュニティ・ユニオンの現状と課題」『労働経済旬報』no.1632-1634
- 2000、「コミュニティ・ユニオンの組織と活動」『社会政策学会誌第3号 社会政策における国家と地域』御茶の水書房。
- 高橋美保、1998、「「リストラ」失業が失業者とその家族に及ぼす心理的影響」慶応大学大学院社会学研究科修士論文。
- 高橋祐吉、1998、「日本の経営の変貌と労働組合の行方」『日本労働社会学会年報』第9号。
- 竹田昌次、2000、「管理職管理の新たな展開と労働組合」原田實・安井恒則・黒田兼一編著『叢書現代経営学12 新・日本的経営と労務管理』ミネルヴァ書房。

- 竹中恵美子、1989、『戦後女子労働史論』有斐閣。
- 1993、「総括 現代の女性労働と社会政策」『社会学会年報第37集 現代の女性労働と社会政策』御茶の水書房。
- 竹中恵美子編、1993、『グローバル時代の労働と生活』ミネルヴァ書房。
- 竹中恵美子・久場嬉子、1994、『労働力の女性化』有斐閣。
- 田尾雅夫、1995、「会社人間の心性—組織帰属意識論からのアプローチ—」『日本労働研究雑誌』No. 422。
- 田尾雅夫編著、1997、『「会社人間」の研究 組織コミットメントの理論と実際』京都大学学術出版会。
- 田尾雅夫、1998、「変わりゆく集団帰属意識」日本労働研究機構『集団帰属意識の変化と職業生活』調査研究報告書No. 104。
- 特集「個別的人事処遇の展開と労使関係」、1998、『日本労働研究雑誌』No. 460。
- 徳住堅治・井上幸夫・大塚達生、1994、『ザ・管理職組合』中央経済社。
- Toulaine, A., 1978, *La voix et le regard, Seuil*. (梶田孝道訳、1983、『声とまなざし』新泉社)
- 戸塚秀夫・徳永重良編、1993、『現代日本の労働問題 新しいパラダイムを求めて』ミネルヴァ書房。
- 戸塚秀夫・中西洋・兵藤釦・山本潔共著、1976、『日本における「新左翼」の労働運動』東京大学出版会。
- 戸塚秀夫・井上雅雄、1981、「中小企業の労働争議」労使関係調査会編（1981）所収。
- 戸塚秀夫・兵藤釦編著、1991、『労使関係の転換と選択』日本評論社。
- 津村明子・北明美、1994、「雇用における男女平等と労働組合」竹中・久場編（1994）所収。
- 都留康、2002、『労使関係のノンユニオン化：ミクロ的・制度的分析』東洋経済新報社。
- 氏原正治郎、1966、『日本労働問題研究』東京大学出版会。
- 1989、『日本の労使関係と労働政策』東京大学出版会。
- 梅澤正、1997、『サラリーマンの自画像』ミネルヴァ書房。
- Walton, J., 1991, 'Labour union and Gender' in Redditt & Sinclair (Ed.) *Working Women* (山本光子訳、1994、『ジェンダーと女性労働 その国際ケーススタディ』柘植書房 所収)
- Webb, S. & Webb, B., 1894, rev. ed., 1920, *History of Trade Unionism* (荒畑寒村監訳、飯田鼎・高橋光訳、1973、『労働組合運動の歴史』全二冊、日本労働研究機構)
- 1932, *Method of Social Study*, (川喜多喬訳、1985、『社会調査の方法』、東京大学出版会)
- Weber, M., 1922, *Soziologische Grundbegriffe* Mohr. (清水幾太郎訳、1972、『社会学の根本概念』岩波文庫)
- 山田和代、1998、「日本における労働組合の賃金政策とジェンダー」東京女性財団助成研究1997年度研究報告書。
- 山本潔、1977、『戦後危機における労働運動』御茶の水書房。
- 1981、『自動車産業の労資関係』東京大学出版会。
- 1991、「大企業の労資関係—“フォーマル”機構・“インフォーマル”組織」東京大学社会科学研究所編『現代日本社会 第5巻 構造』東京大学出版会。
- 矢野真和・連合総研編、1998、『ゆとりの構造』日本労働研究機構。
- 矢澤澄子監修、1997、『女性問題キーワード111』ドメス出版。

## 【資料】

### 書籍—発行順

(東京管理職ユニオン)

- 佐高信・設楽清嗣編著、1995、『「管理職ユニオン」宣言』社会思想社。
- 設楽清嗣、1998、『会社との「闘い方」教えます 大リストラ時代のサラリーマン・サバイバル講座』現代書林。
- 設楽清嗣、1999、『会社ムラから生還せよ—大リストラ時代のサラリーマン自立道—』毎日新聞社。
- 東京管理職ユニオン、日本労働弁護団編、1995、『会社をやめる父から会社に入る息子・娘たちへ リストラ攻撃をうけた  
中高年管理職サラリーマンの手記』教育史料出版会。
- 東京管理職ユニオン編、1996、『たたかう会社員 「職場いじめ」完全撃退マニュアル』自由国民社。
- 東京管理職ユニオン編、1997、『ハイ！こちら社内イジメ1110番 あなたの不安、不満にお応えします』  
KKベストセラーズ。
- 宮崎学・設楽清嗣、1999、『敗者復活』幻冬舎。
- 江波戸哲夫、2000、『復活の砦—小説・管理職ユニオン』祥伝社。
- (女性ユニオン東京)
- 女性ユニオン東京、1996、『働く女性のパワーアップ・メニュー』教育史料出版会。
- (その他)

東京都立労働研究所、1993、『転換期における労働組合の役割』。

1995、『不況下の中小企業管理職』。

連合生活総合開発研究所、1997、『新時代の労使関係に関する調査研究』

日本労働研究機構、1998、『リストラの実態に関する調査 結果報告書』。

フジタ未来経営研究所、2000、『21世紀 日本の生き方』 研究報告書『「会社人間」が見失ったもの』。

#### 論文など発行順

(管理職ユニオン)

東京管理職ユニオン、1993、『東京管理職ユニオンニュース』(1999年より『ファイティングポーズ』) 1- 号。

大野隆、1995、「管理職ユニオンのめざすもの」、『季刊労働者の権利』209号。

「ユニオン情報—東京管理職ユニオン」、1996、『労働法律旬報』1386-

大野隆、1996、「東京管理職ユニオンの活動状況と紛争解決例」、『季刊労働法』180号。

(女性ユニオン東京)

女性ユニオン東京、1995-、「ファイト!」1- 号。

「女性ユニオンの過去・現在・未来」、1998、『労働法律旬報』1429号

「ユニオン情報—女性ユニオン東京」、1996、『労働法律旬報』1387-1438号

伊藤みどり、1997、「女性労働者の独自課題を担う組合を」『労働経済旬報』1589号

谷恵子、1997、「女性による、女性のための、女性のユニオン」『女性労働研究』32号。

(その他)

第13回コミュニティ・ユニオン全国交流会 第6分科会資料「ユニオンの組織運営」、2001。